

♣ 「**沖縄県立向陽高校 SSH 石垣島研修**」を初めて実施しました。

石垣にはラムサール湿地(アンパル湿地)や於茂登岳(沖縄県最高峰)などがあり、亜熱帯地域の貴重な生態系が存在します。また石垣島天文台には沖縄本島にはない優れた施設がある。これらの施設や自然観察会を2泊3日の研修で体験し、科学的探究心の育成を図る目的で本研修を始めました。応募多数の中より理数科9名と普通科1名計10名が選考により選ばれました。



(出発式)



(環境省石垣事務所)



(VERA 石垣島天文台職員の説明と電波望遠鏡)



1 日目 環境省石垣事務所・国際サンゴ礁モニタリングセンターにて「石西礁湖におけるサンゴ礁自然再生の取り組み」について学び、VERA石垣島天文台観測所で、ブラックホールの観察研究など講義と施設見学を行いました。夜は、石垣青少年の家で「石垣島天文台について」花山 秀和氏(石垣島天文台施設責任者)を講師に招き、天文台は多くの大学にとっても重要な研究施設であることから星好きな中高生向けイベントの開催まで多岐にわたる活動をされていることを紹介してもらいました。その後「通事 安夫氏」(石垣星の会会長)による星空観察会を行いました。当日は悪天候であったことから過去の貴重な映像や石垣島で昔から南十字星が季節(農業の種まき・収穫)などで利用されてきたことなども紹介がありました。



(石垣島天文台の講義)



(通事 安夫氏の講義)

2 日目 今日の本研究の最大の楽しみである名蔵アンパル干潟の実習を午前、午後は於茂登岳自然観察です。名蔵アンパルはラムサール条約湿地でもある多くの生き物の生息する貴重な干潟です。その自然を守り自然観察会で活用する「アンパルの自然を守る会：講師 藤本氏」のガイドの下、ヤエヤマヒルギの根元に集まる大型の巻き貝キバウミニナやシレナジムを観察し、マングローブ林での水性生き物を捕獲実習など



(名蔵湾アンパル干潟での実習)



(魚網で捕獲)



(ミナコウガニ)(次のページへ続く!)



様々な実習を体験しました。干潟の持つ浄化能力がサンゴを育て、豊かな漁場を守っていることやマングローブ林が供給する干潟の有機物を多くのカニが食べ、そのカニをエサにさらに多くの水生生物や渡り鳥が多く飛来し、生物多様性が維持されていることを実感しました。地元の人々がその自然を見つめ民謡で 15 種類のカニを歌っていることから、代々守られてきたアンパルの自然を守り続けることは石垣島の魅力＝「サンゴ礁や豊かな自然が魅力」持続可能な観光につながることなると感じました。3 時間の研修はあっという間で貴重なフィールド実習を体験しました。



(シレナシジミ)

(カウミナとシマナシジミ)

(ヒルギダマシの塩分耐性)

(ヤエヤマヒルギの根)

於茂登岳自然観察について

沖縄県最高峰の於茂登岳は八重山の固有種が数多く生息することから生徒達にとっても楽しみな研修の 1 つです。講師は長く高校生物教育に関わってきて現アンパルの自然を守る会 会長の島村氏に案内をしてもらいました。登山道は沖縄本島北部に似た多くの植物に混じり、本島では見たことないギランイヌビワが長く大きな板根と樹皮に直接実が結実しています。セミもタイワンヒグラシとクロイワゼミの聞いたことのない鳴き声が響き渡り、これでもかというぐらいサキシマキノボリトカゲが出てきました。



(登山道での説明)

(固有種アイワインガール)

(於茂登岳の滝にて)

3 日目 石垣島最大の川「宮良川の実習」です。実習の前半では石垣島の有用植物ヒハツモドキやゲットウ、モダマの巨大な種、サソリモドキ、スイジガイなどの希少な動物を次々紹介してくれました。後半カヌーに乗ってマングローブ林を見学しました。カワセミやコサギ、チュウサギを間近で見学し、オヒルギ林に上陸しシレナシジミの大群を探すアクティビティを体験しました。3 日間内容の濃い研修となりました。



(宮良川マングローブ実習)

(固有種・ヤエヤママルヤスデ)

(サキシマヒラタクワガタ)

(星空観察会：石垣青少年の家)